
特別活動分科会

I 研究のあゆみ

4月20日(木)	2023年度名教組教研オリエンテーション (2023年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(火)	発表テーマ報告・集約	
5月9日(火)	研究計画の検討	【蓬来小】
5月下旬～6月下旬	全体での会は開かなかったものの、個別に指導	
7月21日(金)	研究内容の検討・レポートの検討 (第2次実践の検討と研究のまとめ方)	【蓬来小】
8月28日(月)	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【蓬来小】
9月16日(土)	第73回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウイंकあいち】

II 研究協議の概略

AI(人工知能)やIoT等の先端技術の発達や情報化が急速に進んでいる。今後、子どもたちは、こうした超スマート社会「Society5.0」を生き抜いていかなければならない。そのためには、一人ひとりが個性を生かすことや互いを尊重することを大切にしながら、仲間と協働して直面する課題を解決していく力を育成することが求められている。

このような今日的な課題を踏まえて、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することをめざした実践を報告する。24本のレポートの内容を分類すると、次のようになる。

- 学級や学校における生活づくりへ参画する活動(話し合い活動・学級集会活動・係活動等)
- 一人ひとりのキャリア形成と自己実現を図る活動
- 異年齢集団による交流活動
- 学校行事の充実に向けた学級活動

III 今後に残された課題

- 行事の時間の確保が難しくなっている今、学級や学校の課題について、話し合いで合意形成したり、役割を分担して実践したりしながら、協働して解決していくためにはどうしたらよいか。
- 一人ひとりのキャリア形成や自己実現を図るために、現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度、社会参画の意識をどのように育成していくか。
- 自分の「よさ」だけでなく、短所も含めた「ありのままの自分」を受け入れることができるようにするための実践を学校全体でどのように進めていくか。